

英語科学習指導案

日時 平成16年11月12日(金)第5校時
対象 2年A組(男子17名 女子16名 計33名)
場所 2年A組教室
指導者 教諭 宮 明子

1 単元名 Unit 6 Christmas Is Coming --- Dialog

2 単元について

(1) 教材観

クリスマスが共通の話題となる単元である。クリスマス間近で、飾り付けをされたツリー、足下にはプレゼントがある。壁には世界中から届いたカードが飾られている。次に、マークに届いたクリスマスカードをもとに、マークと由美が会話する。クリスマスの由来、南半球と北半球のクリスマスの違いを二人の会話から学ぶ。後半は「きよしこの夜」が誕生する経緯を読み物から知る。

この単元ではThere is(are)...「・・・がある」と所在や様子を説明する表現を学ぶ。この表現は、話し手の気持ちを伝えるというよりは、様子を説明するものなので、日常生活では頻度の高くない表現であると考えられる。また、日本語と英語の語順の違いから、理解しにくい表現ではないかと思われる。しかし、次に学ぶIs there...?という表現は、あるかないかを尋ねるので、日常生活の中で、よく使われる表現である。パターンプラクティスを繰り返し、簡潔な文を用いることで、身近な表現となるように工夫したい。

その他この単元で学ぶ文法項目は、動名詞である。動名詞の形がingなので進行形と混同することが考えられる。意味を考えさせたり、用いる文を工夫したりしたい。

(2) 生徒観

自分の気持ちや考えていることをなかなか表に出せない。日常でも人前で自分の意見を話すことを苦手とする生徒が多い。継続した取り組みは得意でないが、できるようになりたいという気持ちは大きい。

英語の発音には日本語と異なるものも多いため、日本語にはない音を恥ずかしがってなかなか話せない。そのため、口は動くのだが音読の声は小さい。少しでも英語に慣れて声に出せるよう音読を重視している。授業中の発言は、男子が積極的である。女子は、わかっているも声に出さない。学習への意欲は全体的に低い。

(3) 指導観

英語を苦手とする生徒が多いので、段階の目標を低く設定し、一つ一つをクリアすることで、自信につながれるようにしたい。使用する例文は、簡潔でわかりやすい文を用いて、なるべく日常に即したものとなるようにしたい。文法を学ぶ時には、既習事項の英単語を覚えていないため言語活動に臨めないというようなことがないように、新出の文法事項以外の負担を極力なくし、生徒の心的不安を和らげたい。

3 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

ア 言語活動に積極的に取り組む。

(2) 表現の能力

ア 本文を正しく音読できる。

イ 新出の文法事項や重要語(句)を用いて、自分の考えなどを表現できる。

(3) 理解の能力

ア 聞いたり読んだりして、本文の大切な部分を理解することができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

ア 語句や文の使い分けがわかる。

イ 新出の文法事項を用いた文構造についての知識がある。

4 指導計画及び評価規準

単 元	月	時 間 数	学 習 内 容	評 価 規 準			
				コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ユ ニ ット 6	11	2	【題材】 クリスマス間近の部屋の情景 【新出の文法事項】 There is (are) ...	・読み物の内容に興味を示し、積極的に黙読や音読に取り組んでいる。 ・言語活動において自ら学んだ表現などを使っている。	・文法に従って正しく話すことができる。	・書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。	・ There is (are)...を用いた文の意味、構造を理解している。
		3	【題材】 クリスマスカードを見ながらの会話。クリスマスの由来、南半球と北半球との違い。 【新出の文法事項】 Is (Are) there ...? と応答	・読み物の内容に興味を示し、積極的に黙読や音読に取り組んでいる。 ・間違うことを恐れずに言語活動に取り組んでいる。	・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる。 ・文法に従って正しく話すことができる。	・書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。	・ Is (Are) there...? を用いた文の意味、構造を理解している。
		2	【題材】 「きよしこの夜」誕生の経緯。オルガンが壊れて困っている。 【新出の文法事項】	・理解できないところがあっても推測するなどして読み続ける。 ・言語活動に	・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる。 ・適切な速さ	・書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。	・ 動名詞を

	動名詞を目的語とする文	おいて自ら学んだ表現を使っている。	や声の大きさを話することができる。		目的語とする文の意味、構造を理解している。
2	【題材】 「きよしこの夜」誕生の経緯。新しい歌を作った。 【新出の文法事項】 動名詞を主語とする文	・理解できないところがあっても推測するなどして読み続ける。 ・言語活動において自ら学んだ表現などを使っている。	・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話することができる。 ・適切な速さや声の大きさを話することができる。	・書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。	・動名詞を主語とする文の意味、構造を理解している。
1	【単元のまとめ】 単元テスト				
評価の方法		・授業での観察 ・学習シート、ノート、ワークブック ・小テスト	・授業での観察 ・単元テスト ・音読テスト	・授業での観察 ・単元テスト	・授業での観察 ・小テスト ・単元テスト

5 本時の指導

(1) 本時の目標と具体的評価規準

本時の目標	具体的評価規準		
	A	B	C (支援の方法)
間違ふことを恐れずに言語活動に取り組んでいる。 <コミュニケーションへの関心・意欲・態度>	単元を通して2回評価し、2回とも意欲的な様子が見られた場合。	単元を通して2回評価し、1回でも意欲的な様子が見られた場合。	活動しやすい雰囲気を作るとともに、激励しながらヒントを多めに提示する。
Is there ...?を用いた文の形、意味、用法がわかる。 <言語や文化についての知識・理解>	Is there ...?の形、意味、用法を理解し、まとめの問題で全問正答できる。	Is there ...?の形、意味、用法を理解し、まとめの問題で8割以上正答することができる。	再度説明したり、練習する箇所を指示したりし、ヒントを与える。

(2) 本時の指導構想

- ア 前時に学習した基本文・語句について、授業の始めに小テストを行う。答え合わせの後に説明をする。書けなかった文や語句はその場で練習させて、定着を図る。
- イ Is there ...?を正しく理解できるように、例文は簡潔でわかりやすいものになるよう留意する。また、音声を中心に言語活動を行う。途中で評価・補充等を行い、知識面での定着をめざす。

(3) 展開案

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入 15分	<p>1 あいさつ</p> <p>2 小テスト(dictation)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時復習の書き取りテストに挑戦する。 ・文法、語句の復習。 ・答え合わせを行い、書けなかったものを練習する。 <p>3 新出文法事項の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話される英語を聞き、内容を推測する。 <p>4 学習課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト用紙 ・速さを変えながら行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 普通の速さ。途中で切らない。 2) ゆっくりと。書ける速さ。 3) 最後は確認を促す。 ・簡潔に説明し、1分程度練習させる。全問正解した生徒は、教室の中の物について自己表現する。 ・ピクチャーカード ・Is there ...?を用いて様々な物の所在を問う。 ・ヒントになるような身振り手振りをする。 ・グループで相談してよいこととする。 ・紙板書により、学習課題を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">Is there...? を使った文の意味や使い方を覚えよう。</div>		
展開 25分	<p>5 新出文の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Is there...?を用いた文を練習する。 ・応答文も練習する。 <p>6 言語活動 (英問英答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Is there...?の文に英語で答える。 <p>7 言語活動 (Interview Game)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達にインタビューをする。 ・終わったら席に戻り、ワークシートの指示に従い、書く練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく話すことや、イントネーションや区切りなどを注意させる。簡潔な文を用いる。 ・身近なものについて考える文を用いる。 ・ワークシート ・たくさん英語を話せるように声をかけたり、なかなか話しかけられない生徒に声をかけたりして、活動しやすい雰囲気をつくる。 ・文字で確認して定着をめざす。 ・机間巡視をし、Cにならないように支援する。
終末	<p>7 小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだ表現を確認する。 <p>8 補充・深化学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時既習内容から問題を出す。

終末	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの結果に応じて、それぞれの課題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答え合わせを行い、規準に沿って学習の指示を出す。 A：全問正解の時は、ワークブックの問題を解く。 B：間違えた問題について練習し、終わったらワークブックの問題を解く。 C：再度の説明や練習する箇所の指示により、補充問題に取り組む。 ・確かめプリント
10分	<p>9 次時の学習内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をする。
	<p>10 あいさつ</p>	

(4) 板書例

Friday, November 12th, 2004 sunny

(小テストの答えを書く 消す)

Is there...? を使った文の意味や使い方を覚えよう。

ピクチャーカード

There is a cat on the chair.

Is there a cat on the chair?

Yes, there is.

No, there is not.

(isn' t)